

◎効果的かつ効率的な通所サービスの運営のために必要なこと

1) 地域の人に予め知ってもらう、そして「デイ」のイメージを変えてもらう

地域(近所)の「歩いて通える距離」の方になるべく早い時期から、
なじみの場所として「使ってもらう」。

通所サービスのイメージを、

「サービス(ケア、リハビリ)を受ける場所」から、

「その「場」を活用して、自分したい**「活動」がしやすい場所**」に変える。

◎効果的かつ効率的な通所サービスの運営のために必要なこと

1) 地域の人に予め知ってもらう、そして「デイ」のイメージを変えてもらう

◎ミニデイ、運動型でデイを「体験」してもらう

◎デイを地域サロンの「場」として活用 → 地域の人との出会いの場

◎推進会議と連動した活動になり、地域交流にもつながる

→ケアマネージャーに頼らない告知活動へ

「わざわざ費用をかけずに宣伝活動、そして地域交流」

◎効果的かつ効率的な通所サービスの運営のために必要なこと

2) 制度の流れをつかみ、デイが「**地域**」の中での「**役割**」を担う

◎平成27年度 介護保険制度改定での「通所サービスの機能強化」

→ **地域**の中で「通所」に求められる「**機能**」とは？

◎平成30年度 医療保険・介護保険同時改定後に進む「予防改革」

→ **健康維持、介護予防**に効果を出すためには？

平成27年度 介護保険制度改定における通所サービスの機能強化

- ①認知症対応機能 → 認知症加算(新設)
- ②重度者対応機能 → 中重度者ケア体制加算(新設)
- ③心身機能訓練～生活行為力向上機能訓練機能
→ 機能訓練加算の強化
- ④地域連携拠点機能 → 生活相談員の専従要件緩和

利用者の地域での暮らしを支えるため、医療機関や他の介護事業所、地域の住民活動等と連携し、通所介護事業所を利用しない日でも利用者を支える地域連携の拠点としての機能を展開できるよう、生活相談員の専従要件を緩和し、事業所内に限った利用者との対話を主体とした相談業務のみならず、サービス担当者会議に加えて地域ケア会議への出席などが可能となるようにする。

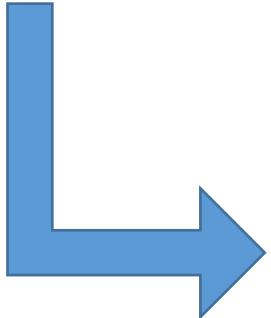
健康維持 → 介護予防 → 重度化予防

ライフステージの変化を意識した
「つなげる」ための働きかけをする役割

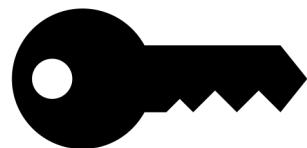
地域連携拠点機能

医療・介護の「連携」につながる

平成30年度 医療保険・介護保険同時改定後の「大きな変化」



通所サービスの
勝負のカギ！？



高齢者の保健事業と介護予防の
一体的実施について

平成30年7月26日
厚生労働省老健局・保険局

社会保障審議会
介護保険部会（第74回）
平成30年7月26日

資料 2

平成30年7月19日

第113回社会保障審議会医療保険部会

資料 2

高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施に
関する有識者会議報告書

高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施の
推進に向けたプログラム検討のための実務者検討班
報告書

平成 30 年 12 月 3 日

高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施に
関する有識者会議

令和元年 9 月

高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施の推進に向けた
プログラム検討のための実務者検討班

- 健康格差の解消により、2040年までに健康寿命を3年以上延伸、平均寿命との差の縮小を目指す。

- 重点取組分野を設定、2つのアプローチで格差を解消。

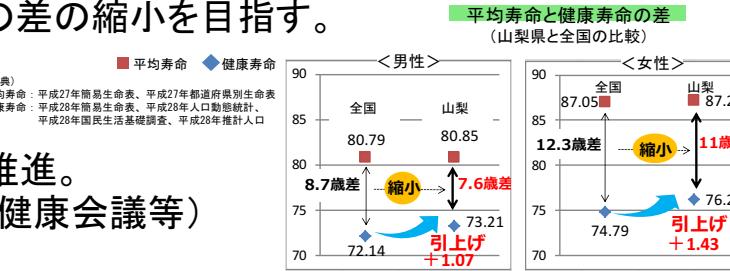
① 健康無関心層も含めた予防・健康づくりの推進

- ・多様な主体の連携により、無関心層も含めた予防・健康づくりを社会全体で推進。

② 地域間の格差の解消

- ・健康寿命には、大きな地域間格差。地域ぐるみで取り組み、格差を解消。

※全都道府県が、健康寿命の最も高い山梨県の水準に到達すれば、**男性+1.07年、女性+1.43年の延伸。**



① 健康無関心層も含めた予防・健康づくりの推進

② 地域間の格差の解消

重点取組分野	具体的な方向性	目指す2040年の姿
次世代の健やかな生活習慣形成等 健やか親子施策	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての子どもの適切な生活習慣形成のための介入手法の確立、総合的な支援 ・リスクのある事例の早期把握や個別性に合わせた適切な介入手法の確立 ・成育に関わる関係機関の連携体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・成育環境に関わらず、すべての子どもが心身ともに健やかに育まれる。 例) 低出生体重児の割合や10代の自殺死亡率を先進諸国トップレベルに改善する。
疾病予防・重症化予防 がん対策・生活習慣病対策等	<ul style="list-style-type: none"> ・個別・最適化されたがん検診・ゲノム医療の開発・推進、受けやすいがん検診の体制づくり ・インセンティブ改革、健康経営の推進 ・健康無関心層も自然に健康になれる社会づくり(企業、自治体、医療関係者等の意識共有・連携)(日本健康会議等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々人に応じた最適ながん治療が受けられる。 ・所得水準や地域・職域等によらず、各種の健康指標の格差が解消される。
介護・フレイル予防 介護予防と保健事業の 一體的実施	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防(フレイル対策(口腔、運動、栄養等)を含む)と生活習慣病等の疾病予防・重症化予防を一体的に実施する枠組みの構築、インセンティブも活用 ・実施拠点として、高齢者の通いの場の充実、認知症カフェの更なる設置等 地域交流の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域で、生活機能低下防止と疾病予防・重症化予防のサービスが一体的に受けられる。 例) 通いの場への参加率 15% 認知症カフェの設置箇所数 9,500箇所

基盤整備

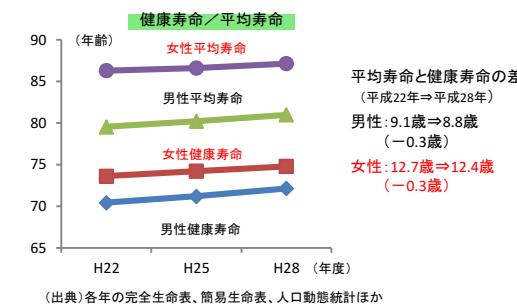
見える化

データヘルス

研究開発

社会全体での取組み

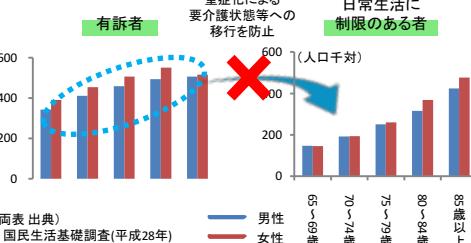
- 人生100年時代を見据え、健康寿命を延伸するため、高齢者の予防・健康づくりを推進することが重要。
 - 高齢者の有病率は高く、早期発見・早期対応とともに、重症化予防が課題。
 - また、生活機能も急速に低下し、高齢者が参加しやすい活動の場の拡大や、フレイル対策を含めたプログラムの充実が課題。
 - さらに、介護予防と生活習慣病対策・フレイル対策は実施主体が別であり、高齢者を中心として提供されるよう連携が課題。
 - このため、フレイル対策等の介護予防と生活習慣病等の疾病予防・重症化予防を一体的に実施する枠組みを構築。



健康寿命の延伸に向けた課題

1. 疾病予防・重症化防止の対応

- ▶ 高齢者の大半は何らかの自覚症状を有し、医療機関に受診。
 - ▶ 慢性疾患の有病率が非常に高く、複数の慢性疾患を有する割合も高水準。
 - ⇒ 早期発見・早期対応
(特定健診・保健指導の実施率向上等)
 - ⇒ 効果的な重症化予防
(日常生活に支障が生じるリスクへの対応)



2. 高齢者の生活機能低下への対応

- ▶高齢者の生活機能は75歳以上で急速に低下。

	65～69	70～74	75～79	80～84	85～
日常生活に制限	15%	19%	26%	35%	46%
要介護認定率	3%	6%	14%	29%	59%

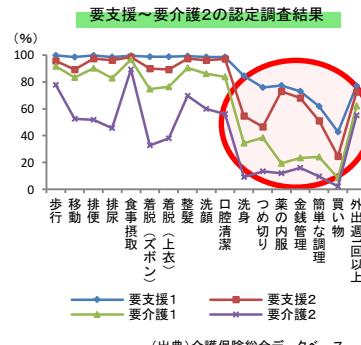
(出典)上欄:国民生活基礎調査(平成28年)

同様の動作等は維持されていても、

- ▶身の回りの動作等は維持されていても、買い物、外出等の生活行為ができなくなる傾向。
 - ▶高齢者が気軽に立ち寄る通いの場(=介護予防の場)を整備しているが、参加率は低迷。フレイル対策(運動、口腔、栄養等)を含めたプログラムの改善が求められている

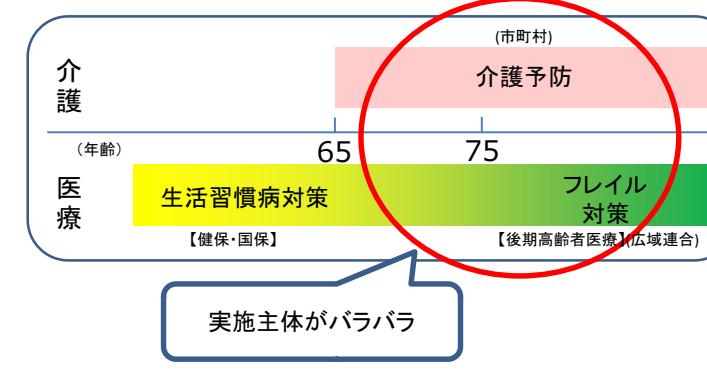
※平成28年度の参加率・高齢者人口の4.18%

⇒ 高齢者が参加しやすい活動の場の拡大 プログラムの充実



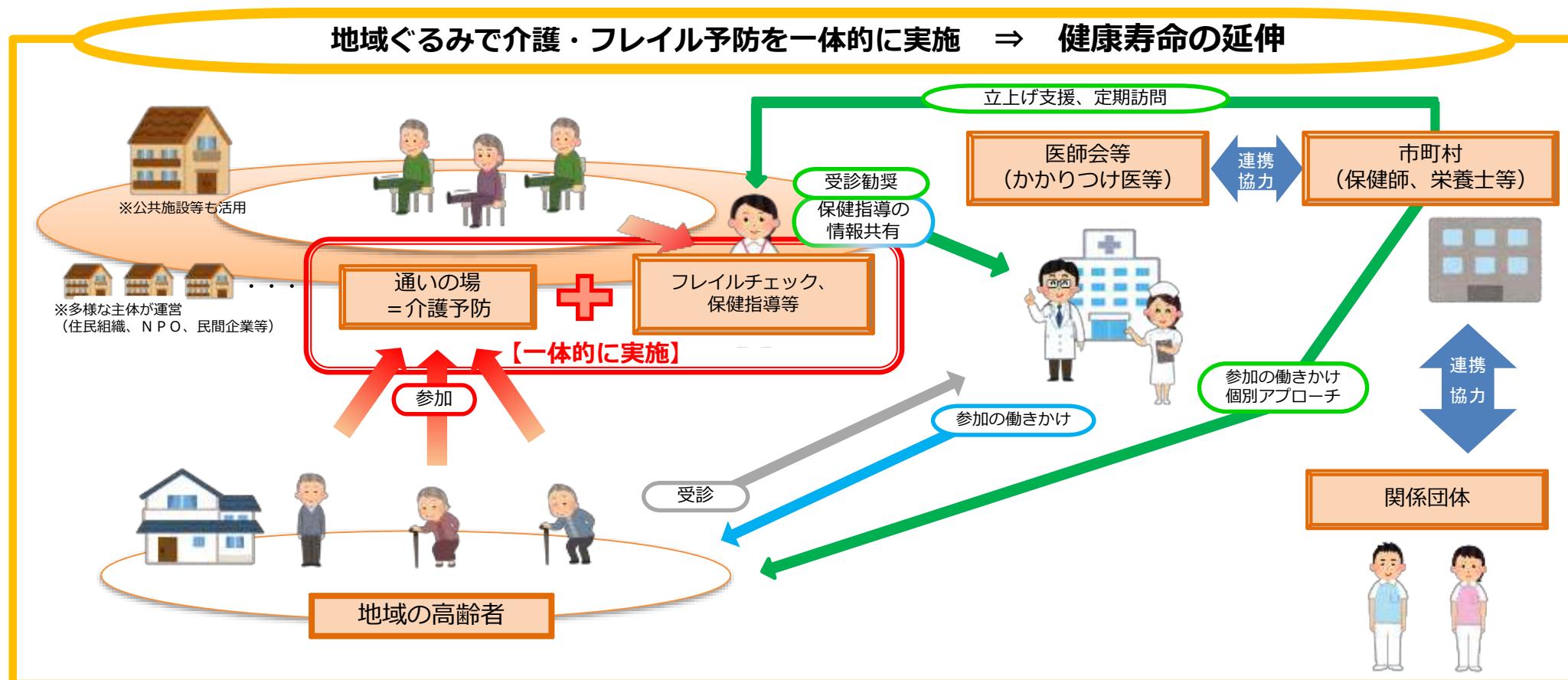
3. 1・2の一体的対応

- ▶生活習慣病対策・フレイル対策(医療保険)と介護予防(介護保険)が別々に展開。
 - ▶医療保険の保健事業は、75歳を境に、保険者・事業内容が異なる。



予防・健康づくりの推進(医療保険・介護保険における予防・健康づくりの一体的実施)②

- 高齢者の通いの場を中心とした介護予防（フレイル対策（運動、口腔、栄養等）を含む）と生活習慣病等の疾病予防・重症化予防の一体的実施。
 - 通いの場の拡大、高齢者に対して生きがい・役割を付与するための運営支援、かかりつけの医療機関等との連携。



高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施（市町村における実施のイメージ図）

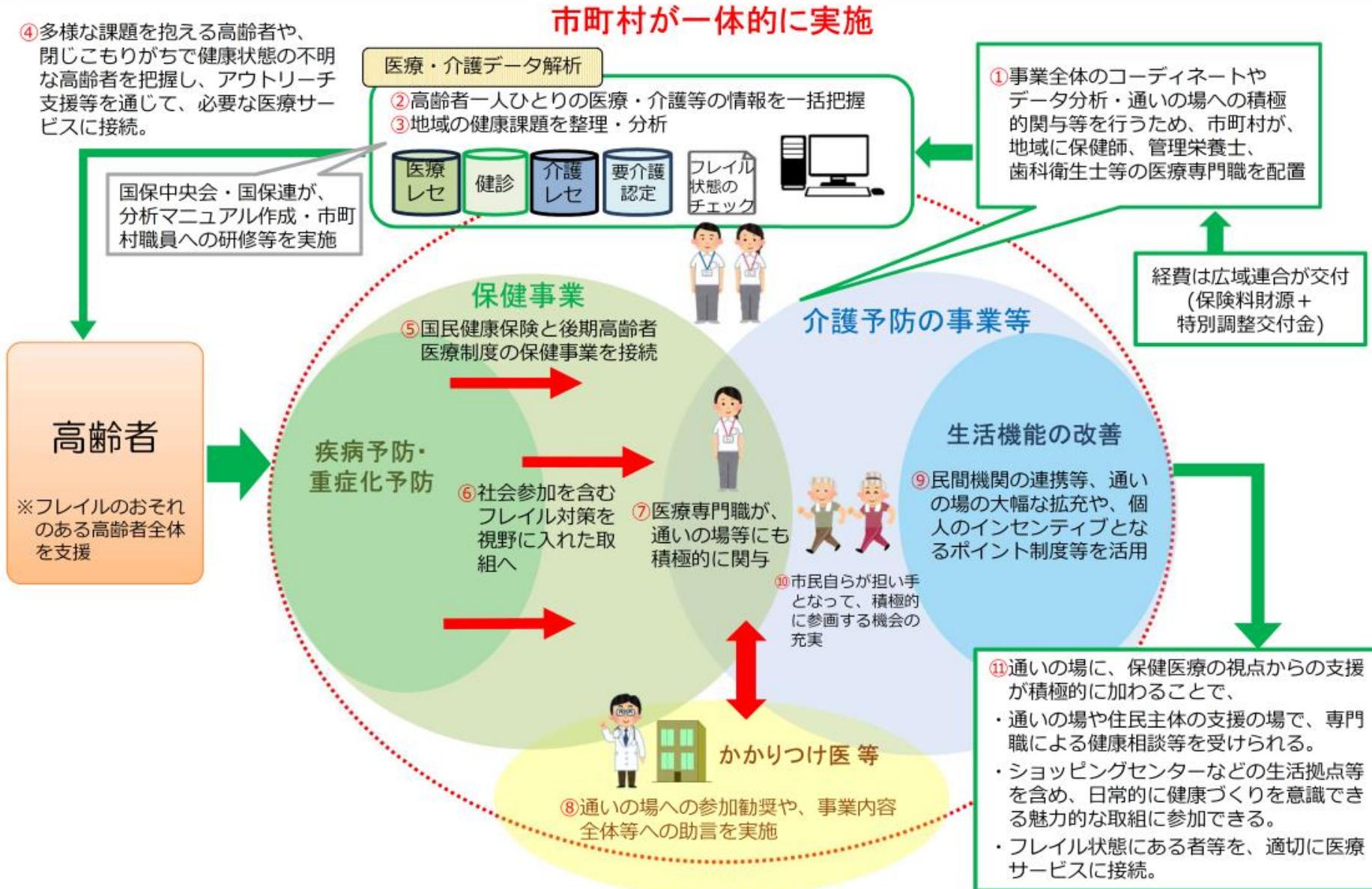


図 4 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施（市町村における事業実施のイメージ図）

◎効果的かつ効率的な通所サービスの運営のために必要なこと

3) 地域の「人財」の活用、活躍の場づくり

◎地域サロンの活用 地域の人との出会いの場

◎場所、設備、送迎車の有効活用

◎シニアボランティアの育成

◎効果的かつ効率的な通所サービスの運営のために必要なこと

1) 地域の人に予め知ってもらう、そして「デイ」のイメージを変えてもらう
地域(近所)の「歩いて通える距離」の方になるべく早い時期から、
なじみの場所として「使ってもらう」。

通所サービスのイメージを、
「サービス(ケア、リハビリ)を受ける場所」 から、
「その「場」を活用して、自分したい**「活動」がしやすい場所**」に変える。

→ ご近所の方を、健康維持 → 介護予防 → 重度化予防 まですべて支援できる

→ 慣れ親しんだ「場」で、急な入院や療養について相談ができる

◎効果的かつ効率的な通所サービスの運営のために必要なこと

1) 地域の人に予め知ってもらう、そして「デイ」のイメージを変えてもらう

◎ミニデイ、運動型でデイを「体験」してもらう

◎デイを地域サロンの「場」として活用 → 地域の人との出会いの場

◎推進会議と連動した活動になり、地域交流にもつながる

→ケアマネージャーに頼らない告知活動へ

「わざわざ費用をかけずに宣伝活動、そして地域交流」

→ **Good!**ケアマネージャーに相談に行く前に、
まず一番最初に通所に相談に来てくれる

フレイル予防、
転倒骨折後のリハビリ、
認知症ケア、
ガン等の重症者ケア
などなど